

【調査票配布対象先】

①全国自治体病院 (悉皆 959 件)

②在宅療養支援診療所 (悉皆 11,881 件)

【調査同意の可否】

この調査への協力を拒否されたり、同意を取り消されたりしても今後貴施設に何らかの不利
益が生じることは全くございません。

◇以上この調査の趣旨をご理解頂けましたら、以下をお読み頂き、ご回答賜りますよう宜しく
お願い申し上げます。

調査の趣旨を理解しました。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

調査に協力することに同意します。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

【回答にあたってのお願い】

1. 設問をお読みいただき、あてはまる番号に○をつけるか、ご記入ください。設問によって、「1つ」「あてはまる番号をいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。「その他」等のところは具体的にご記入ください。
2. ご回答頂きましたアンケートは、同封の返信封筒に入れて、**10月30日(金)**までにポストに投函して下さい（郵送料はかかりません）。
3. この調査に関するご質問やお問い合わせ等は、下記までお願いいたします。

問い合わせ先

「遠隔医療の概念整理と遠隔連携に関する研究」事務局

(仙台往診クリニック内) 担当：千葉・伊藤

TEL：022-212-8501(平日13～17時) FAX：022-212-8533(24時間)

e-mail：doctork@oushin-sendai.jp

仙台往診クリニックホームページ：http://www.oushin-sendai.jp/

【アンケートご記入にあたってのお願い】

自由記載の欄は、なるべく詳細にお願いいたします。

問 1

貴施設についてお尋ねいたします。

a) : 貴施設の常勤医師数、非常勤医師数

常勤医		人
非常勤医		人

b) : 施設形態（有床、無床）

有床	無床
----	----

c) : 実際に遠隔医療を行っていますか、
またその人数

医師－医師	有 ・ 無	人
医師－看護師等 医療関連職種	有 ・ 無	人
医師－患者	有 ・ 無	人

問 2

患者数について / 平成 21 年 7 月（1 ヶ月）のうちでお尋ねいたします。

a) : 患者総数（レセプト件数）

問 2 a)	人（件）
--------	------

b) : 患者総数のうち、外来患者数

問 2 b)	人
--------	---

c) : 患者総数のうち、実際に訪問診療を算定した患者数

問 2 c)	人
--------	---

d) : 患者総数のうち、在宅末期医療総合診療料を算定した患者数

問 2 d)	人
--------	---

e) : 患者総数のうち、在宅時医学総合管理料を算定した患者数

問 2 e)	人
--------	---

f) : e) のうち重症者加算を算定した患者数

問 2 f)	人
--------	---

g) : 患者総数のうち、在宅人工呼吸指導管理料を算定した患者数

問 2 g)	人
--------	---

問3

平成21年1月から6月までの半年間についてお尋ねします。

a) : 訪問診療の月平均回数

問3 a)		回
-------	--	---

b) : 往診の月平均回数

問3 b)		回
-------	--	---

c) : b)のうち、早朝・夜間・深夜、祝祭日における往診の月平均回数

問3 c)		回
-------	--	---

問4

平成21年1月から6月までの半年間についてお尋ねします。

a) : 在宅(居住系も含む)での看取り総数

問4 a)		人
-------	--	---

b) : a)のうち、夜間・休日の在宅看取り数

問4 b)		人
-------	--	---

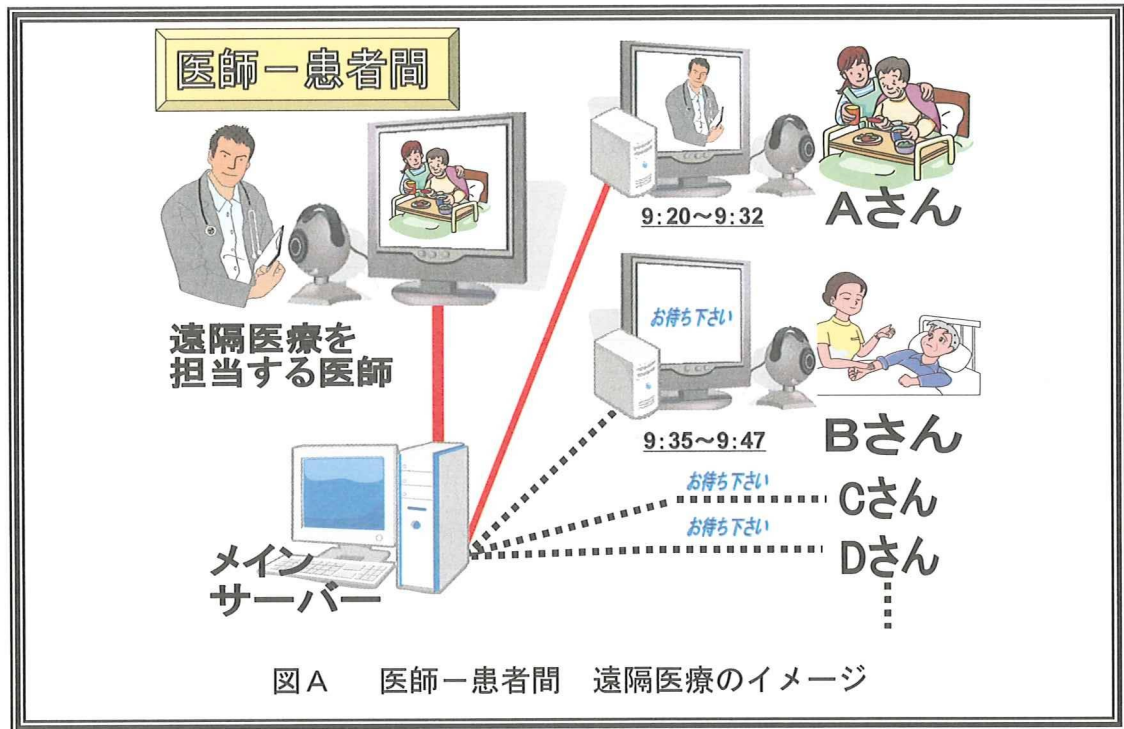
c) : a)のうち、がんの在宅看取り数

問4 c)		人
-------	--	---

問5

平成21年7月において、在宅時医学総合管理料もしくは在宅末期医療総合診療料を算定している患者の総診療報酬点数が、貴施設の診療報酬に占める比率はおよそ何%でしたか

問5		%
----	--	---



※以下をご回答頂くにあたり、医師一患者間の遠隔医療を実践する場合を想定下さい。

◇ テレビ電話の前にすわり、診察を始めました。

問A-1：これまでADSL回線、パソコン端末等を利用した場合、画像が動かなくなったり、雑音や音声途切れ等の指摘が研究結果として報告されています。

仮に雑音や音声の途切れによって、十分なコミュニケーションが取れない場合、その後どのように診察を進めますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	そのまま診察を進める
2	電話を併用し、診察を続ける
3	診察を中断し、システムの復旧作業を行う
4	その他 ()

問A-2：テレビ電話の映像も音声も順調です。しかし患者さんが約束の診察時間になってもモニターの前に現れません。その後どのように診察を進めますか。

もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	次の患者の診察時間になるまで待つ
2	患者宅へ電話をかけ、確認する
3	次の患者へ連絡し、先に進める
4	その他 ()

問A-3：テレビ電話等による診療中、順番待ちの患者さんから診察の時間を早めて欲しいと連絡がはりました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	診察順番を調整するために、それぞれの患者へ電話する
2	調整が困難なため、別な診察日を提案する
3	別な医師（もしくは看護師）に対応してもらう
4	その他（ <input type="text"/> ）

問A-4：テレビ電話による診察中、一度診察が終了した患者さんから診てほしいことがあったのでテレビ電話にて再診をしてほしい、との電話がありました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

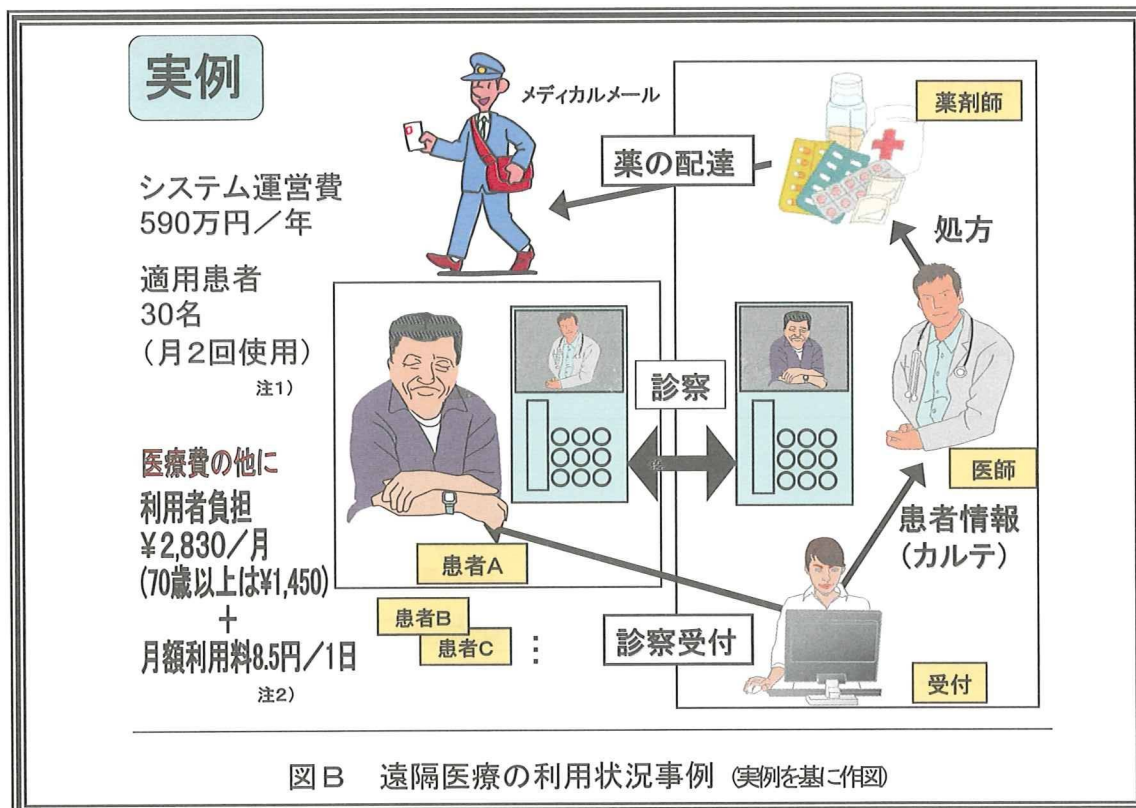
1	あらためて診療の予約を入れてもらうように伝える
2	すぐにテレビ電話で再診する
3	そのまま電話で用件を聞き、回答する
4	その他（ <input type="text"/> ）

問A-5：テレビ電話による診察中、往診の呼び出しがありました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	患者に連絡した上でテレビ電話を中止し、往診をする
2	他の医師もしくは看護師に緊急対応を依頼しテレビ電話の診察を続ける
3	その他（ <input type="text"/> ）

問A-6：テレビ電話の画像で皮膚を診て診断し薬を処方しましたが、後日症状が悪化したと患者から連絡がありました。その後どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	患者宅を訪問する
2	患者が貴院へ来るよう伝える
3	再度テレビ電話等による遠隔診療を実施する
4	その他（ <input type="text"/> ）



※以下をご回答頂くにあたり、医師－患者間の遠隔医療を実践する場合を想定下さい。

◇ 患者が在宅テレビ電話を運用する場合、医療費のほかに 2,830 円／月の患者負担が必要となります (図Bより)。

問B-1：患者が負担する場合、上記の金額をどのように思われますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	高いと思う
2	安いと思う
3	分からない

◇ テレビ電話使用時の平均通話時間は 11.6 分／1 回 (5 分 20 秒～23 分 10 秒) という報告がなされています^{注3)}。図Bを参考に貴施設で遠隔医療を実施し、患者 30 名 (月 2 回) の診察をする場合、

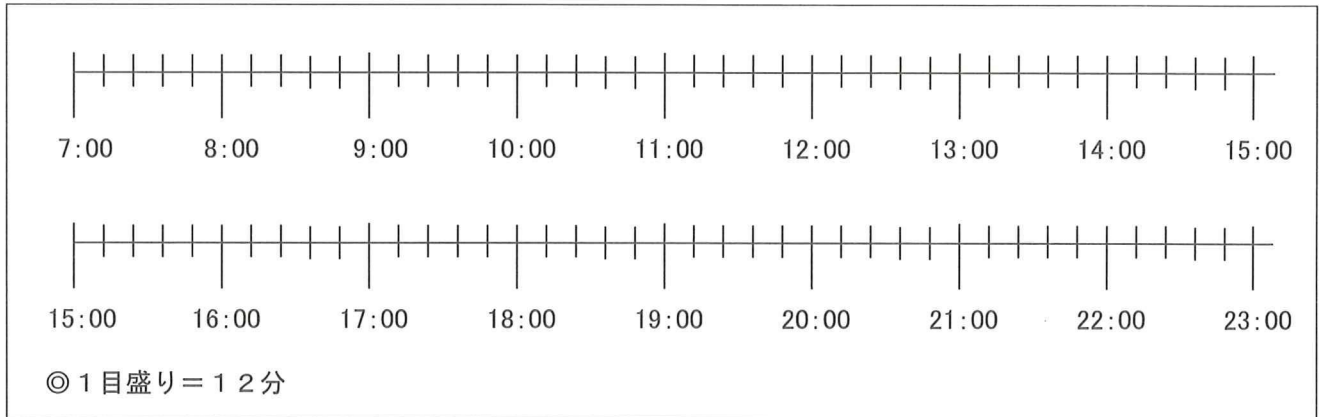
問B-2：遠隔医療技術を用いた診療はどの程度の頻度で実施できるでしょうか。

1	2 週間に 1 回程度	(例：第 1、3 水曜日に 30 名ずつ)
2	週 1 回程度	(例：毎週水曜日に 15 名ずつ)
3	週 3 回程度	(例：月・水・金曜日に 5 名ずつ)
4	ほぼ毎日	(例：月～金に 3 名ずつ)
5	その他 ()	

問B-3：遠隔医療技術を利用した際の貴施設における診察可能な時間帯と回数を下図にお示し下さい。

【回答例】

右図は午前 9:00 から 10:00 までのうち、
1日5名の診察が可能な場合の例



◇ 図Bを参考に貴施設で遠隔医療を実施し、患者30人（月2回）の診察をする場合、
問B-4：遠隔医療を担当する医師数とそれを補佐する職種と人数をお答え下さい。

医師	人
看護職	人
ソーシャルワーカー	人
事務職員	人
その他（ ）	人

問B-5：遠隔医療の位置づけについてお考えをお尋ね致します。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	遠隔医療は、対面診療の代替となりうる。
2	遠隔医療は、あくまでも対面診療の補助である。
3	わからない
4	その他（ ）

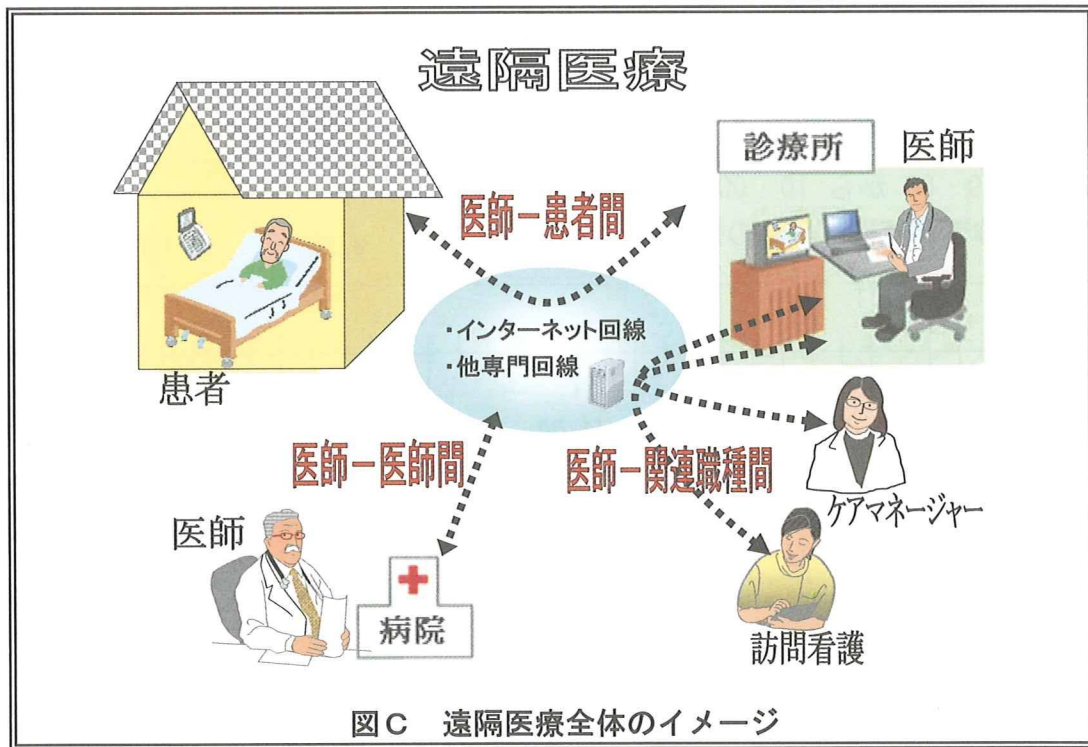
注1) 総務省東北総合通信局 ブロードバンド利活用先進事例集

http://www.soumu.go.jp/soutsu/tohoku/joho/2007_03chiiki/bb_parts/bb_01_14.pdf

注2) 遠隔医療の類型と取組例（追加調査）<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/04/dl/s0425-13c.pdf>

注3) 酒巻哲夫 遠隔医療の概念と実例(2009.3)

<http://square.umin.ac.jp/jtta/news/20090313telemedicine.pdf>



問 C-1 : テレビ電話を含めた遠隔医療の運用にともなう医療者側にとっての利点についてあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1	医療従事者の人件費の削減
2	多職種間での患者情報（バイタル等）の共有
3	地理的な制約を受けない
4	リアルタイムの指示伝達
5	患者の日常生活や家族の把握
6	医師間等でやり取り出来る診療支援・相談
7	その他（ ）

問 C-2 : テレビ電話を含めた遠隔医療の運用にともなう医療者側にとっての欠点についてあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1	遠隔医療運用にともなう機器の導入・維持
2	機器故障に備えたりリスクマネジメントの体制整備
3	機器類の操作および遠隔診療によって拘束される時間
4	画像精度による画像診断の限界
5	連絡（急変等）に対応する医療スタッフ数と時間の増大
6	対象患者の個人情報管理とその教育
7	その他（ ）

問C-3：テレビ電話を含めた遠隔医療の運用にともなう患者側にとっての利点についてあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1	通院に伴う患者の身体的負担の軽減
2	患者やその家族の不安に対する早急な対応
3	通院にかかる費用の節減
4	深夜・休日の連絡・相談
5	病状が急変した際の対応
6	日々のデータを基にした受診
7	その他 ()

問C-4：テレビ電話を含めた遠隔医療の運用にともなう患者側にとっての欠点についてあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1	触診・聴診ができないこと
2	約束の診療時間に合わせなくてはいけない時間的制約
3	機器類の導入にともなう出費
4	本人・家族等が機器の操作に対する知識と技術が必要となること
5	住宅内外の通信設備工事を伴うこと
6	家庭内を見られる、もしくはプライバシーが無くなること
7	その他 ()

問C-5：遠隔医療技術の導入・運用は、どの両者間が最も有効だと思いますか。当てはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	医師－医師
2	医師－看護師等 医療関連職種
3	医師－患者
4	医師－介護関連職種
5	その他 ()

問D-1：「テレビ電話をはじめとする遠隔医療」を導入した場合、遠隔医療のシステムを利用して24時間いつでも患者の相談に対応できるでしょうか。

1	24時間対応できる
2	24時間対応できない
3	わからない

問D-2：現在、緊急対応が必要なときに24時間いつでも患者宅へ往診をしていますか。

1	24時間往診している
2	標榜時間内には往診している
3	標榜時間内でも往診はしない

問D-3：「テレビ電話をはじめとする遠隔医療」を導入した場合、緊急対応が必要なときに24時間いつでも患者へ往診するでしょうか。

1	24時間往診する
2	24時間往診はしない
3	わからない
4	その他（ ）

問D-4：遠隔医療を導入・運用することによって、

1	医師が訪問するようになる
2	あまり変わらない
3	医師が訪問しなくなる
4	わからない

問D-5：人生の終末において、次第に衰えていく患者とそれを見守る家族を支え、たとえ急変しても在宅で適確な説明と医療を行い、看取りの場におもむいて死亡診断を行うことが、遠隔医療を導入・運用することで、

1	医師が在宅で看取りをしやすくなる
2	医師が在宅で看取りをしにくくなる
3	在宅での看取りと遠隔医療は関連しない
4	わからない

問F：回答者ご自身について、以下の項目にお答え下さい。なお、所在地（都道府県と市区町村名）、役職は、必ずお書き下さい。（選択は複数回答可）

施設名					
所在地	〒	—	都道府県 市区町村名 (必須)	都道府県	市区町村
電話番号					

標榜している診療科目に○をつけて下さい。また主たる診療科目1つに◎をつけて下さい。	01	内科	02	心療内科	03	呼吸器科	04	消化器科
	05	胃腸科	06	循環器科	07	アレルギー科	08	リウマチ科
	09	小児科	10	精神神経科	11	精神科	12	神経科
	13	神経内科	14	外科	15	整形外科	16	脳神経外科
	17	呼吸器外科	18	心臓血管外科	19	こう門科	20	産婦人科
	21	産科	22	婦人科	23	眼科	24	耳鼻咽喉科
	25	気管食道科	26	皮膚科	27	泌尿器科	28	リハビリテーション科
	29	放射線科	30	麻酔科	31	歯科	32	口腔外科
	33	その他（						
		）						

役職 (必須)	
------------	--

～以上でアンケートは終わりです。ご協力誠にありがとうございました。～

平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

『遠隔医療の概念整理と遠隔連携に関する研究』

アンケート調査ご協力のお願い

平成 20 年度に実施された厚生労働科学特別研究事業「在宅医療における遠隔医療の適正な利用に関する調査研究」（主任研究者：川島孝一郎）の結果より、遠隔医療技術の導入が医療現場に及ぼす影響についてのエビデンスの不足、遠隔医療技術導入により在宅へ『往診しない・訪問しない医師』を増加させる可能性、が示唆されております。

そこで本調査では、①遠隔医療の概念を整理し、②在宅医療への遠隔医療技術導入の限界および遠隔医療の適正な利用、③医療提供体制における連携及び介護提供体制における連携の有無、について皆様のご意見をお聞かせ頂きたく存じます。

図表を参照のうえ内容をご理解頂き、各設問にお答え頂きたくお願い申し上げます。

本調査をご記入頂くにあたり

※ご自身が遠隔医療を実践する場合を想定下さい。

《注》

遠隔医療は、「映像を含む患者情報の伝送に基づいて遠隔地から診断、指示などの医療行為及び医療に関連する行為を行なうこと※）」と定義され、医師－医師、医師－看護師等医療関連職種、医師－患者に大別されます。本調査では主として医師－患者で行なわれる遠隔医療についてお尋ねします。

※）厚生労働省遠隔医療研究班「総括班最終報告書」（平成 9 年）

【調査票配布対象先】

- ①全国自治体病院 (悉皆 959 件)
- ②在宅療養支援診療所 (悉皆 11,881 件)

【調査同意の可否】

この調査への協力を拒否されたり、同意を取り消されたりしても今後貴施設に何らかの不利
益が生じることは全くございません。

◇以上この調査の趣旨をご理解頂けましたら、以下をお読み頂き、ご回答賜りますよう宜しく
お願い申し上げます。

調査の趣旨を理解しました。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

調査に協力することに同意します。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

【回答にあたってのお願い】

1. 設問をお読みいただき、あてはまる番号に○をつけるか、ご記入ください。設問によって、「ひとつ」「あてはまる番号をいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意下さい。「その他」等のところは具体的にご記入下さい。
2. ご回答頂きましたアンケートは、同封の返信封筒に入れて、

10月30日(金)までにポストに投函して下さい(郵送料はかかりません)。

3. この調査に関するご質問やお問い合わせ等は、下記までお願いいたします。
問い合わせ先

「遠隔医療の概念整理と遠隔連携に関する研究」事務局

(仙台往診クリニック内) 担当：千葉・伊藤

TEL：022-212-8501(平日13~17時) FAX：022-212-8533(24時間)

e-mail：doctork@oushin-sendai.jp

仙台往診クリニックホームページ：http://www.oushin-sendai.jp/

【アンケートご記入にあたってのお願い】

自由記載の欄は、なるべく詳細にお願いいたします。

問 1

貴施設についてお尋ねいたします。

a) : 貴施設の常勤医師数、非常勤医師数

常勤医		人
非常勤医		人

b) : 貴施設の病床数

	床
--	---

c) : 貴施設の平均在院日数

	日
--	---

d) : 実際に遠隔医療を行っていますか、またその人数をお答え下さい

医師－医師	有 ・ 無	人
医師－看護師等 医療関連職種	有 ・ 無	人
医師－患者	有 ・ 無	人

問 2

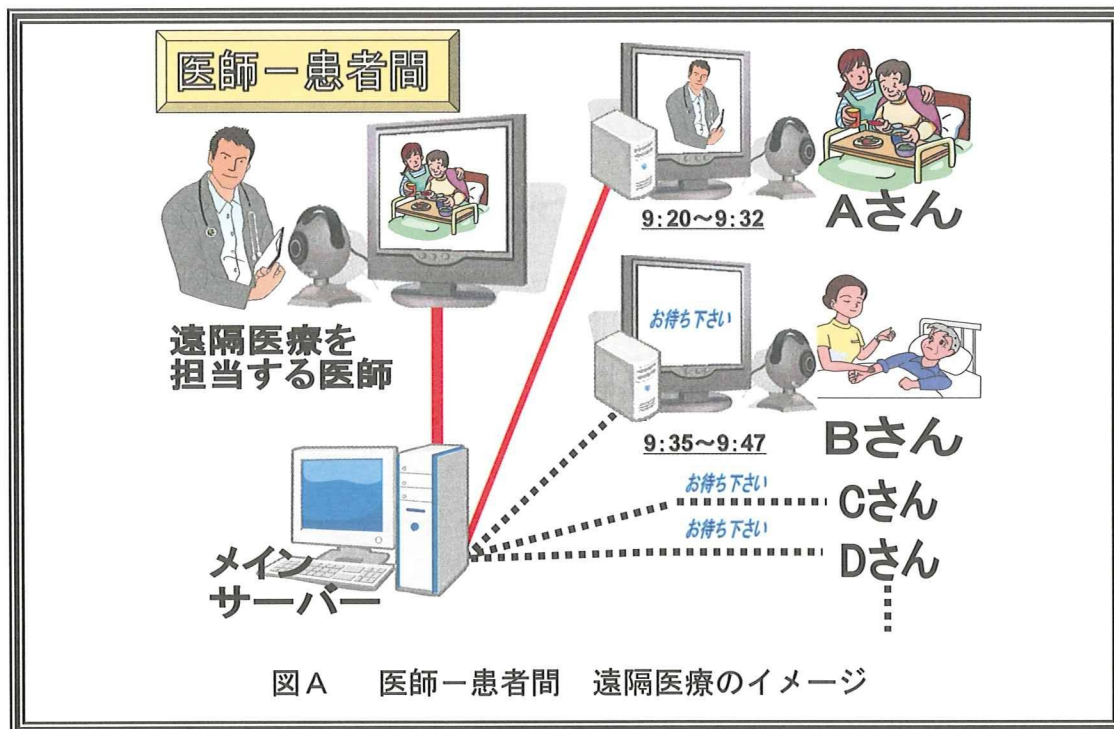
患者数について / 平成 2 1 年 7 月 (1 ヶ月) のうちでお尋ねいたします。

a) : 1 日平均外来患者数

問 2 a)	人
--------	---

b) : 退院総数のうち、医療連携室を介して退院した患者の割合

問 2 b)	%
--------	---



※以下をご回答頂くにあたり、医師—患者間の遠隔医療を実践する場合を想定下さい。

◇ テレビ電話の前にすわり、診察を始めました。

問A-1：これまでADSL回線、パソコン端末等を利用した場合、画像が動かなくなったり、雑音や音声途切れ等の指摘が研究結果として報告されています。

仮に雑音や音声の途切れによって、十分なコミュニケーションが取れない場合、その後どのように診察を進めますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	そのまま診察を進める
2	電話を併用し、診察を続ける
3	診察を中断し、システムの復旧作業を行う
4	その他 ()

問A-2：テレビ電話の映像も音声も順調です。しかし患者さんが約束の診察時間になってもモニターの前に現れません。その後どのように診察を進めますか。

もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	次の患者の診察時間になるまで待つ
2	患者宅へ電話をかけ、確認する
3	次の患者へ連絡し、先に進める
4	その他 ()

問A-3：テレビ電話等による診察中、順番待ちの患者さんから診察の時間を早めて欲しいと連絡がはりました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	診察順番を調整するために、それぞれの患者へ電話する
2	調整が困難なため、別な診察日を提案する
3	別な医師（もしくは看護師）に対応してもらう
4	その他（ <input type="text"/> ）

問A-4：テレビ電話による診察中、一度診察が終了した患者さんから診てほしいことがあったのでテレビ電話にて再診をしてほしい、との電話がありました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

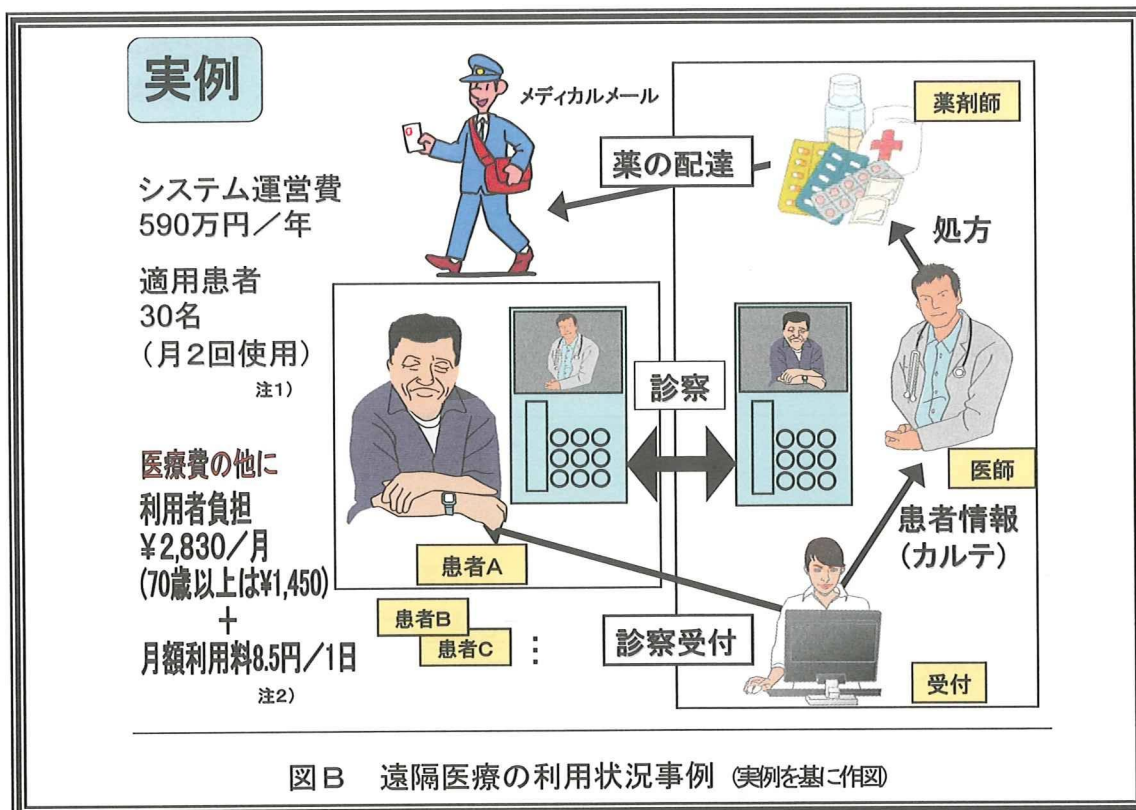
1	あらためて診察の予約を入れてもらうように伝える
2	すぐにテレビ電話で再診する
3	そのまま電話で用件を聞き、回答する
4	その他（ <input type="text"/> ）

問A-5：テレビ電話による診察中、緊急の呼び出しがありました。どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	患者に連絡した上でテレビ電話を中止し、緊急対応をする
2	他の医師もしくは看護師に緊急対応を依頼しテレビ電話の診察を続ける
3	その他（ <input type="text"/> ）

問A-6：テレビ電話の画像で皮膚を診て診断し薬を処方しましたが、後日症状が悪化したと患者から連絡がありました。その後どのように対応されますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	患者宅を訪問する
2	患者が貴院へ来るよう伝える
3	再度テレビ電話等による遠隔診療を実施する
4	その他（ <input type="text"/> ）



図B 遠隔医療の利用状況事例 (事例を基に作図)

※以下をご回答頂くにあたり、医師－患者間の遠隔医療を実践する場合を想定下さい。

◇ 患者が在宅テレビ電話を運用する場合、医療費のほかに 2,830 円/月の患者負担が必要となります(図Bより)。

問B-1：患者が負担する場合、上記の金額をどのように思われますか。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	高いと思う
2	安いと思う
3	分からない

◇ テレビ電話使用時の平均通話時間は 11.6 分/1 回 (5 分 20 秒～23 分 10 秒) という報告がなされています^{注3)}。図Bを参考に貴施設で遠隔医療を実施し、患者 30 名《月 2 回》の診察をする場合、

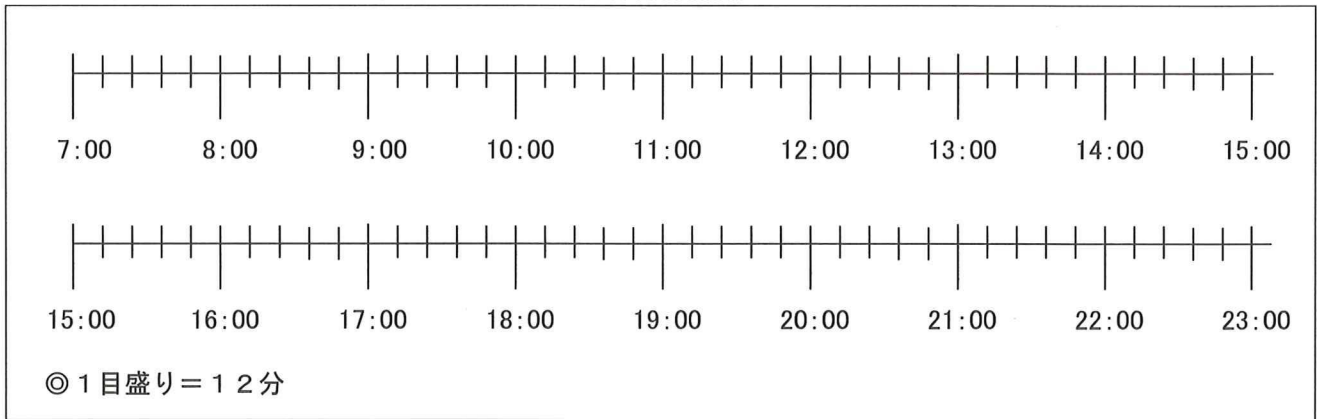
問B-2：遠隔医療技術を用いた診療はどの程度の頻度で実施できるでしょうか。

1	2 週間に 1 回程度	(例：第 1、3 水曜日に 30 名ずつ)
2	週 1 回程度	(例：毎週水曜日に 15 名ずつ)
3	週 3 回程度	(例：月・水・金曜日に 5 名ずつ)
4	ほぼ毎日	(例：月～金に 3 名ずつ)
5	その他 ()	

問B-3：遠隔医療技術を利用した際の貴施設における診察可能な時間帯と回数を下図にお示し下さい。

【回答例】

右図は午前 9:00 から 10:00 までのうち、
1日5名の診察が可能な場合の例



◇ 図Bを参考に貴施設で遠隔医療を実施し、患者30人（月2回）の診察をする場合、
問B-4：遠隔医療を担当する医師とそれを補佐する職種と人数をお答え下さい。

医師	人
看護職	人
ソーシャルワーカー	人
事務職員	人
その他（ ）	人

問B-5：遠隔医療の位置づけについてお考えをお尋ね致します。もっともよくあてはまるものひとつに○をつけて下さい。

1	遠隔医療は、対面診療の代替となりうる。
2	遠隔医療は、あくまでも対面診療の補助である。
3	わからない
4	その他（ ）

注1) 総務省東北総合通信局 ブロードバンド利活用先進事例集
http://www.soumu.go.jp/soutsu/tohoku/joho/2007_03chiiki/bb_parts/bb_01_14.pdf
 注2) 遠隔医療の類型と取組例（追加調査）<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/04/dl/s0425-13c.pdf>
 注3) 酒巻哲夫 遠隔医療の概念と実例(2009.3)
<http://square.umin.ac.jp/jtta/news/20090313telemedicine.pdf>